

文系研究の考え方 と仕事の進め方

防衛省防衛研究所

政策研究部 小塚 郁也



出所：国際交流基金関西国際センター

(<http://www.jfkc.jp/ja/news/2014/04/nids-national-institute-for-defense-studies-1.html>)

平成30年7月7日 14:15～15:15

〇〇高等学校

目次

- ▶ 1. 研究とは：勉強との違い
- ▶ 2. 高校生活の間に考えておくべき将来設計
 - 2－1. 現代の時代認識
 - 2－2. 高大接続改革とは何か
 - 2－3. 講師の事例
- ▶ 3. 現代職業空間の分節化と将来見通し
- ▶ 4. 皆さんへのアドバイス
- ▶ 5. 本日のまとめ

1. 研究とは：勉強との違い（1）

▶ 研究とは

出来事の内容（What）、過程（How）、原因（Why）の新規性を解明すること。

▶ 勉強とは

出来事の既知のWhat, How, Whyについて習得すること。研究の前提。

▶ 研究の種類

基礎研究：課題の発見。

応用研究：課題の改善。

開発研究：課題の実用化。

▶ 研究のやり方

実証主義による。出来事の法則や規則、因果関係を客観的に観察・測定する方法。

1. 研究とは：勉強との違い（2）

▶ 定量的（量的）研究

ビッグデータを集めて統計分析する。条件を統制できる実験研究に適する（理系的）。

▶ 定性的（質的）研究

条件を統制できない場合、データが少ない場合に用いる（文系的）。文献研究（内容解明）、事例研究（原因と過程の解明）、観察研究など。

▶ いずれの研究でも横断的（原因・結果同時）、縦断的（原因と結果異時）に行うことがある。

▶ 研究の進め方（具体例その1）

a. 問題意識：アメリカとイランが対立して、日本は困っている。

b. 研究課題（テーマ）を考える。

例：強い同盟国と弱い友好国が対立した場合に、後者に味方する条件。

1. 研究とは：勉強との違い（3）

▶ 研究の進め方（具体例その2）

c. 先行研究を文献調査する。新規性のある研究をデザインしなければならない。

d. 検証可能なリサーチ・クエスチョンを立てる（最も重要）。

例：弱国と連携して強国に対抗した場合、安全と経済的利益の均衡点はあるか。

e. 研究デザイン

- ・量的研究（過去の連携関係に関するデータの統計分析）。

- ・質的研究（該当する事例を研究）。

▶ 研究の進め方（具体例その3）

a. 論文のアウトライン作成。

b. 論文執筆（目次と要約、序論・本論・結論、注と文献リスト）。

例：防衛研究所年度研究では、400字詰め原稿用紙で約60～100枚。

2. 高校生活の間に考えておくべき将来設計（1）

▶ 2-1. 現代の時代認識

a. 第4次産業革命（2016年～）

蒸気（18C）→電気（19C）→IT（20C）→ビッグデータ、AIとIOTを活用する社会（21C）へ。

b. Society 5.0（文科省、6月5日）

・AI技術の発展により、産業が変化、定型業務が淘汰される。

・創造的エリートと、読解力・数学的思考力・情報活用能力のある一般国民を育成。文理融合→高大接続改革へ。

▶ 2-2. 高大接続改革とは何か

a. 近代国家は、大学→高校→義務教育の順で教育システムを整備してきた。

b. したがって、カリキュラムが上手くつながっていない。高校での到達度が大学のニーズに合っているか、従来は大学入試に依存してきた（日本独特）。

c. このままでは、AI時代のグローバル化に対応できない。そこで、高校教育、大学教育、大学入学者選抜、個別選抜を“多面的・総合的”選抜に転換して、一体改革するのが国の方針。

2. 高校生活の間に考えておくべき将来設計（2）

中教審答申（2014年12月22日）

※「学力の3要素」からなる「確かな学力」をつける。

① 基礎的・基本的な知識・技能。

② それらを活用する思考力・判断力・表現力。

③ 主体的に学習に取り組む態度。

・ 高校教育の転換：「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」導入、アクティブ・ラーニングの充実。文系と理系を分けない。

・ 「合教科・科目型」、「総合型」の“評価”と学習指導要領の改訂。

・ 大学入学者選抜の転換：センター試験“廃止”、「大学入学共通テスト（仮称）」導入→現高校1年から。

・ 高校教育の質の確保・向上のための学力評価に使う「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」の創設→AOや推薦入試。

・ 個別選抜の転換：“多面的・総合的”選抜、アドミッション・ポリシーの明確化。

・ 大学教育の転換：カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニング。（ごちゃごちゃしているが、大改革）。

2. 高校生活の間に考えておくべき将来設計（3）

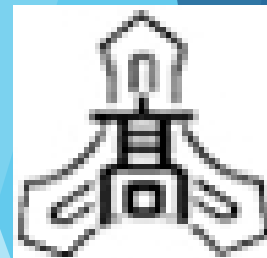
- ▶ 2 - 3. 講師の事例（神奈川県立厚木高校）
- ▶ 旧制中学校以来のバンカラな校風で、特に応援指導が怖くて大変。（今は自由な校風に変貌し、この伝統自体が消滅したそうです）。
- ▶ 遠距離通学 片道約1時間30分。（世田谷区大蔵～本厚木～学校間）
 - ※ 学園祭や体育祭で夜遅い日には、帰路ロマンスカーを使ったことも度々（向ヶ丘遊園で乗り換え）。
- ▶ 3年生での選択は、国立文科系クラス（得意科目は国語・社会科）。一浪後、早大政経学部政治学科に進学。銀行に就職後、改めて大学院進学。
- ▶ 社会科学の研究者を志望。在学中の読書1000冊を目標。
- ▶ 現役時代は自宅であまり勉強できなかったのもので、電車の中で英単英熟語をひたすら暗記。
- ▶ 部活動は歴史研究部（3年時は帰宅部）。

2 - 3. 講師の事例 (神奈川県立厚木高校) 続き

- ▶ 大山と相模川が地域のシンボル。近くに農大のキャンパスがある。



- ▶ 行事やクラブ活動が盛ん。芸術や創作活動に傑出したOB/OGを多数輩出している。



例：名取裕子さん、六角精児（高1時の同級生）、いきものがかり（水野君と山下君）。

※ 左の写真は、厚高の校庭から見た大山。遠足で、山頂まで登山する。出所：

<https://www.mytownclub.com/sns/index.php?guest=true&command=getarticle&asid=3699000&aid=11185002003>

2 - 3. 講師の事例（高校卒業後の進路と職業選択）

- ▶ 大学では民族舞踊研究会で活動（フォークダンス）。その活動を通じて、「世界の火薬庫」バルカン半島の歴史文化について、相当詳しくなった。
- ▶ 周りはアルバイトに明け暮れて留年が多かったが、私は4年間、ほとんどの授業に出席。共働きで学費を出してくれた両親に感謝していたため。
- ▶ 国際政治学のゼミで「中東」情勢を担当したことが、その後「安全保障（Security）」研究に進む契機となった。
- ▶ 結果的にまじめに授業に出たおかげで、大学院に進学できた。
- ▶ 修士号取得後、研究職を目指したが全く空きが無く、念のため社会保険労務士試験と地方公務員試験に合格した上で平成4年に防衛研究所に就職した。

2-3. 講師の事例（仕事の内容とリスク）

▶ 主な仕事の内容

a. 研究成果報告書の執筆。

最低年1本、400字詰め原稿用紙で60～100枚程度の論文を書くこと。

b. 各種講義・セミナーなどの教育。

対象：防衛省高級幹部、外務省その他の幹部公務員、大学等での講義支援など（防衛研究所は国防大学院に該当する）。

c. 国際会議の企画と調整、発表。

d. 論文集など出版物の編集と刊行。

▶ 仕事に伴うリスク

a. そもそも就職することが困難。

大学院修了が必須だが、博士号取得率が低く、少子化で就職口が非常に少ない。優秀かどうかよりも「運」が作用する。

b. 強いプレッシャーにさらされること。

常に研究成果を出し続けるべきという、暗黙の了解がある。“Publish or Perish”

γ. 社会的バッシングを受ける可能性。

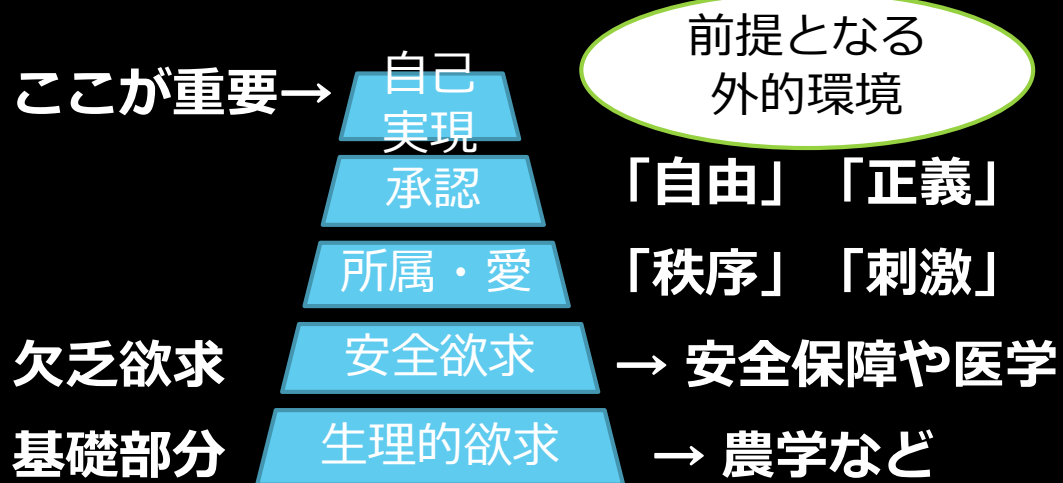
研究成果や講義内容が社会的に批判されることが、必ずしも稀ではない。

2-3. 講師の事例（「こだわり」と「やりがい」）

▶ 「こだわり」

※ 国民の基本的な欠乏欲求を可能な限り満たすよう、努力すること。

例：マズローの基本的欲求階層図



▶ 「やりがい」

- 自分の頭で考えたことを、論文や講義を通じて実践できること。
- 発表や教育を通じて他人と議論できること、さらに人から感謝されることが多いこと。

3. 現代職業空間の分節化と将来見通し

▶ 21世紀に求められる日本人と職業

α. 日本は少子高齢化で人口が減少、経済成長は止まり、貧富の格差が拡大している。

β. 国の財政は借金だらけ。年寄りにも子供にも、もう十分なお金を分けてあげることはいできない。

※ これからの職業イメージ
(個性発揮による自己実現 = 社会貢献)

終身(長期)雇用

組織重視 月 / 時給制	中間ホワイト カラー・減少	専門職 研究者等・少数	仕事重視 年俸制へ
	短時間 / 派遣 労働・増加	プロ 選手等・希少	

短期雇用

所得階層で言えば、中間層が薄くなり、上下の格差が広がる傾向にある。

4. 皆さんへのアドバイス

- ▶ 高校生活を送る間に、前スライドの職業イメージを熟慮し、文理分けず教科を学習しておく必要がある。
- ▶ 主体的に自己実現できる職業につながるような進路を、今から考えておく（必ずしも大学進学でなくてもよい）。だが、今後理系的な知識が重視される社会が来ることは、ほぼ確実である。
- ▶ プロと専門家を目指す進路はとても険しく、少数者だけが仕事を得られることを覚悟しておこう。また、従来型ゼネラリストの中間的ホワイトカラーは機械化と人工知能に代替され、仕事が減っていくはず。

5. 本日のまとめ

- ▶ **結局は、自分の一番好きなことを将来の仕事に選ぶのがベスト。**
- ▶ **そのための準備期間として、熟慮しつつ高校生を送るべき。勉強は授業時間中に理解する。**
- ▶ **勉強と課外活動を、うまくバランスさせよう。「中庸」がとても大切。**

おわり。